

「都立高校中途退学者等追跡調査」 結果の概要について

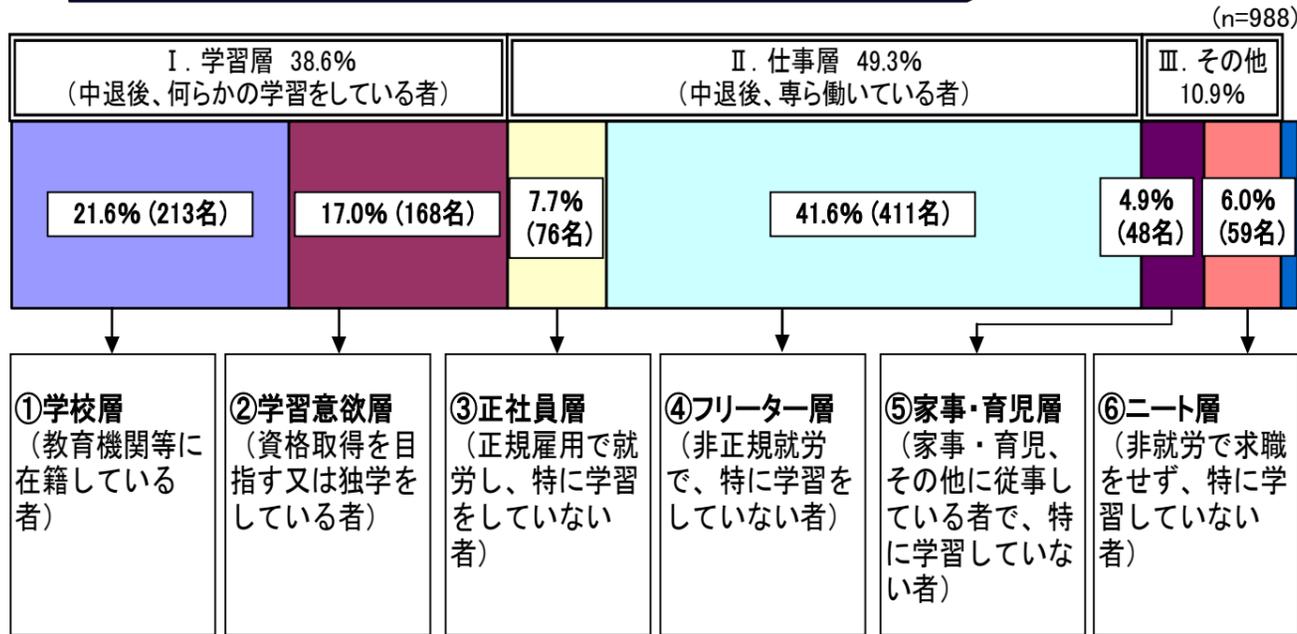
1. 調査概要

- (1) 目的  
都立高校を中途退学した者の意識調査を行い、中途退学の未然防止や退学後の支援の検討資料とする。  
また、進路未決定のまま卒業した者の意識調査も行い、中途退学者との比較検討を行うための資料とする。
- (2) 本調査の特徴  
ア 都として初めて中途退学者本人及び進路未決定卒業生本人に実施した調査  
イ 高校在学時の生活状況や退学（卒業）後の生活や意識を把握
- (3) 調査方法  
質問紙法による調査（郵送による）

- (4) 調査対象者  
ア 都立高校中途退学者（平成22・23年度）  
イ 都立高校進路未決定卒業生（平成23年度）
- (5) 調査期間 平成24年7月～11月
- (6) 回答状況

	調査票発送数 A	不達数 B	不達を除いた 発送数 A-B	回答数 C	回答率 C/(A-B)
ア 都立高校中途退学者	5,526通	674通	4,852通	988通	20.4%
イ 都立高校進路未決定卒業生	1,540通	136通	1,404通	327通	23.3%

2. 中途退学者は今、何をしているか（類型化）



①学校層213名の内訳						
	1 全日制	2 定時制	3 通信制	4 専門学校	5 大学	計
1 正社員	0	0	1	0	0	1
2 非正規等	6	30	74	23	10	143
3 家事育児 働いていない し、求職も していない	2	1	1	3	3	10
4	9	15	19	8	8	59
計	17	46	95	34	21	合計 213

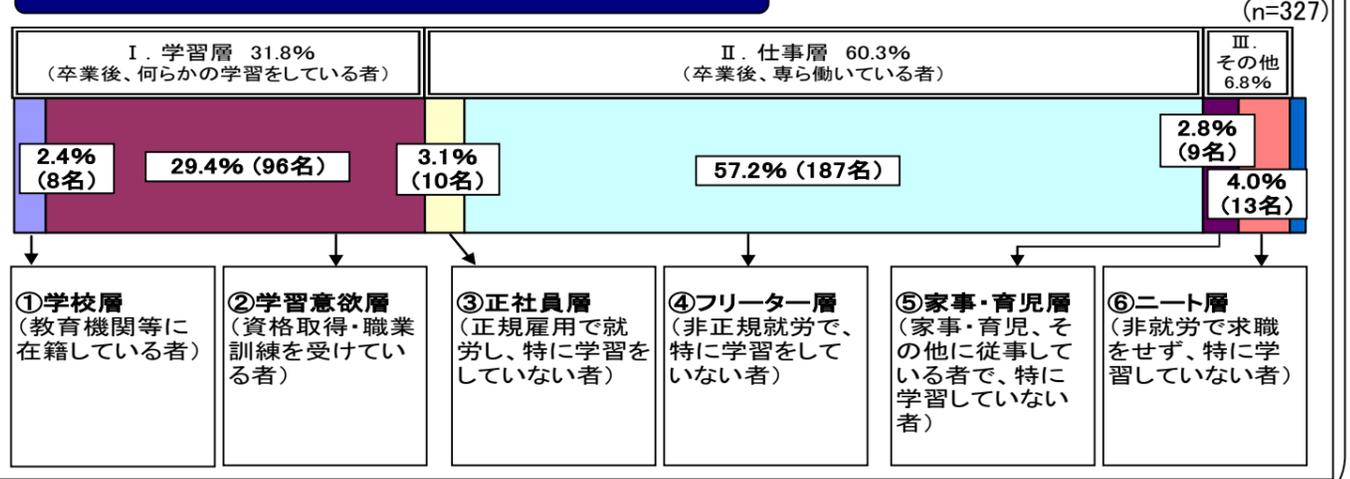
  

②学習意欲層168名の内訳							
	1 資格取得	2 サポート校	3 職業訓練校	4 予備校(大学)	5 独学	6 その他	計
1 正社員	4	1	1	0	3	3	12
2 非正規等	15	12	2	2	63	13	107
3 家事育児 働いていない し、求職も していない	6	1	0	0	3	1	11
4	0	6	0	8	21	3	38
計	25	20	3	10	90	20	合計 168

回答者の特徴

- (1) 回答者全体の約4割が何らかの形で学習に取り組んでおり（学習層）、約5割が学習せずに就労している（仕事層）。
- (2) 学校層の者の多くは、通信制、定時制に在籍している。
- (3) 学習層のうち、学校層では144名、学習意欲層では119名が、同時に仕事をしているが、その大半が非正規就労である。
- (4) 仕事層の大半（411名）は、非正規就労である。
- (5) 学習層の非正規就労とフリーター層を合わせると、回答者全体の約7割が非正規就労の状態にある。  
(学校層の非正規就労143名+学習意欲層非正規就労107名+フリーター層の非正規就労411名=661名で回答者全体の67.0%を占めている。)
- (6) 仕事も学習もしていない者（いわゆる「ニート」）は全体の6%である。

(参考)進路未決定卒業生の現状(類型化)



### 3. 中途退学者各層の分析 概要

	I 学習層 38.6% (381名)		II 仕事層 49.3% (487名)		III その他層 10.9% (107名)	
	1) 学校層	2) 学習意欲層	3) 正社員層	4) フリーター層	5) 家事・育児層	6) ニート層
	21.6% (213名)	17.0% (168名)	7.7% (76名)	41.6% (411名)	4.9% (48名)	6.0% (59名)
中学時代 (良かった、と回答した者の割合)	出席状況 (62%)	出席状況 (約51%)	出席状況 (約62%)	出席状況 (約56%)	出席状況 (約54%)	出席状況 (約31%)
	成績 (約44%)	成績 (50%)	成績 (約30%)	成績 (27%)	成績 (25%)	成績 (約24%)
	部活参加 (約57%)	部活参加 (約51%)	部活参加 (約53%)	部活参加 (約47%)	部活参加 (約38%)	部活参加 (約19%)
中途退学理由 (回答率40%以上)	①遅刻や欠席が多い (約59%)	①遅刻や欠席が多い (約66%)	①通学が面倒 (約65%)	①遅刻や欠席が多い (約69%)	①遅刻や欠席が多い (約71%)	①遅刻や欠席が多い (約58%)
	②通学が面倒 (約55%)	②精神的不安定 (約52%)	②遅刻や欠席が多い (約63%)	②通学が面倒 (約62%)	②通学が面倒 (約60%)	①精神的不安定 (約58%)
	③精神的不安定 (約47%)	③通学が面倒 (約46%)	③別にやりたいことがある (約49%)	③自分の生活リズムと学校が合わなかった (約41%)		③通学が面倒 (約53%)
	④友人とうまく関われなかった (約45%)		④問題のある行動や非行をしてしまった (約45%)			④友人とうまくかかわれなかった (約47%)
	⑤自分の生活リズムと学校が合わなかった (約43%)		⑤学校から校則違反を注意されていた (約43%)			
若者支援機関の活用状況	①特に利用なし (約65%)	①特に利用なし (約55%)	①特に利用なし (約72%)	①特に利用なし (約71%)	①特に利用なし (約69%)	①特に利用なし (約66%)
	②退学した学校 (約13%)	②病院や精神保健C (約16%)	②ハローワーク (約26%)	②ハローワーク (約16%)	②ハローワーク (約21%)	②病院や精神保健C (約20%)
	③病院や精神保健C (約12%)	②ハローワーク (約16%)	③職業訓練センター (約5%)	③病院や精神保健C (約5%)	③病院や精神保健C (約6%)	③カウンセラーや相談機関 (約12%)

	進路未決定卒業生	
	学習意欲層	フリーター層
	29.4% (96名)	57.2% (187名)
中学時代 (良かった、と回答した者の割合)	出席状況 (約88%)	出席状況 (約79%)
	成績 (約56%)	成績 (約39%)
	部活参加 (約67%)	部活参加 (約54%)
高校在籍時の状況 (回答率20%以上)	①通学が面倒 (約33%)	①通学が面倒 (約47%)
	②遅刻や欠席 (約27%)	②勉強についていけなかった (約44%)
	③別にやりたいことがある (24%)	③遅刻や欠席が多い (約32%)
	③勉強についていけなかった (24%)	④自分の生活リズムと学校が合わなかった (約25%)
		⑤学校とは別にやりたいことがあった (約21%)
若者支援機関の活用状況	①特に利用なし (約46%)	①特に利用なし (約65%)
	②ハローワーク (約45%)	②ハローワーク (31%)
	③卒業した学校 (約16%)	③卒業した学校 (約14%)

### 4. 調査の分析から見てきた特徴

#### 【中途退学者調査の特徴】

- (1)「フリーター層」「ニート層」等は中学時代の出席状況や成績が悪く、中学からのつまずきがある。
- (2)中途退学理由では「遅刻や欠席が多い」「通学が面倒」が見られ、基本的な生活習慣の確立がされていない。
- (3)「学習層」「ニート層」では、「精神的不安定」「友人とうまく関われなかった」が多く、メンタル面での課題がある。
- (4)全体的に、中途退学後の支援機関の利用が著しく低く、既存の就労や就学に関するサービスが当事者に届いていない。

#### 【進路未決定卒業生調査との比較】

中途退学者は、進路未決定卒業生と比べ、(1)精神的な課題を抱えているケースが多い、(2)規則正しい生活習慣の確立がされていない、(3)中学時代の出席状況がとても良かった(又はまあ良かった)と回答した率が低い、という特徴がある。

### 5. 今後の取組の方向

- (1) 中途退学に至る経過や中途退学者の置かれている状況については多様で複雑な面があるため、今後、中途退学者本人へのインタビュー調査を行うとともに、有識者を加えた検討会を立ち上げ課題の明確化を図る。
- (2) 上記検討会での結果を踏まえ、教育分野にとどまらず、雇用・労働・福祉等との関連部門と連携し、中途退学の未然防止と中途退学者の支援方策の構築を図る。